

小説 売鬼2

幽霊は答えて、「ただ人の唾を好まないだけだ。」と

17 鬼答言、「惟不喜人唾。」
(p.90 続く内容を限定する。ただろのみ。)

言った。そこで一緒に進んで行くと、道すがら川に行き当たった。定伯は幽霊に先に渡らせて、聞いてみると、まったく音がしない。定伯が自分で渡ると、

18 於是共行、道遇水。
(道中。道すがら。)

みると、まったく音がしない。定伯が自分で渡ると、

19 定伯令鬼先渡、
(鬼を先遣にさせる)

ジャブジャブと音がする。幽霊が再び、「どうして音がするのか。」と言った。定伯が言うことには、「死んだばかりで、川を渡るのが慣れていないためだ。」

20 聽之、了然無声音。
(音楽↑ここでは音。)

音がするのか。」と言った。定伯が言うことには、「死んだばかりで、川を渡るのが慣れていないためだ。」

21 定伯自渡、漕灌作声。
(みづか)

んだばかりで、川を渡るのが慣れていないためだ。

22 鬼復言、「何以有聲。」定伯曰、

私のことを怪しんではいけない。」と。進んで行って宛の市場に到着しそうになると、定伯はすぐさま

23 「新死、不習渡水故耳」。
(ゆえのみ)

て宛の市場に到着しそうになると、定伯はすぐさま幽霊を肩の上に担ぎ上げて、突然これを捕まえて放さなかった。幽霊は大声を上げて叫び、ぎやあぎや

24 勿怪吾也」。
(p.90 否定。ゝない。類義語「無」)

さなかつた。幽霊は大声を上げて叫び、ぎやあぎやあと、下ろすように求めたが(定伯は下ろすことを)

25 行欲至宛市、
(すぐに。類義語「即」(「着」に同じ。つける。)

あと、下ろすように求めたが(定伯は下ろすことを)

26 定伯便担鬼著肩上、急執之。
(すぐに。類義語「即」(「着」に同じ。つける。)

あと、下ろすように求めたが(定伯は下ろすことを)

27 鬼大呼、声咋咋然、
(p.94 強い否定。決して〜しない。二度と〜しない。)

もう許さなかつた。すぐに宛の市場の中に入り、下ろして地面に置くと、(幽霊は)姿を変えて一匹の

28 索下不復聽之。
(p.94 強い否定。決して〜しない。二度と〜しない。)

らして地面に置くと、(幽霊は)姿を変えて一匹の

29 徑至宛市中、下著地、
(ただ)

羊となっていた。(定伯は)すぐにこれを売ってしま

30 化為一羊。便売之。
まった。それが姿を変えることを心配して、これに

唾を吐きかけた。千五百の金銭を手に入れて、そし

31 恐其變化、唾之。
(順接。そこで。そのまま。)

唾を吐きかけた。千五百の金銭を手に入れて、そし

32 得錢千五百乃去。當時石崇有言、

て立ち去った。その当時石崇が言うことには、「定

33 「定伯売鬼、得錢千五。」
伯は幽霊を売って、千五百の金銭を得た。」と。

伯は幽霊を売って、千五百の金銭を得た。」と。

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
「	錢	其	化	徑	下	鬼	定	行	吾	「	鬼	定	之	定	是	鬼
定	千	の	し	ち	さ	大	伯	き	を	新	復	伯	を	伯	に	答
伯	五	変	て	に	ん	い	便	て	怪	た	た	自	聴	鬼	於	へ
鬼	百	化	一	宛	こ	に	ち	宛	し	に	言	ら	く	を	い	て
を	得	せ	羊	市	と	呼	鬼	市	む	死	ふ	渡	に	し	共	言
売	て	ん	と	の	を	び	を	に	こ	し	、	る	、	て	に	ふ
り	乃	こ	為	中	索	、	担	至	と	て	「	に	了	先	、	「
、	ち	と	る	に	む	声	ひ	ら	勿	、	何	、	然	づ	行	「
錢	去	を	。便	至	る	咋	て	ん	か	水	を	漕	と	渡	く	惟
千	る	恐	。ち	り	も	咋	肩	と	れ	を	以	灌	し	ら	に	だ
五	。当	、	之	、	復	然	上	欲	。と	渡	て	と	て	し	、	人
を	時	之	を	下	た	と	に	す	」	る	声	し	声	め	道	の
得	石	に	売	し	之	し	著	る	と	に	有	無	、	、	に	唾
たり	崇	唾	る	地	を	て	け	や	。と	習	る	し		水	に	を
。と	言	す	。	に	聴	、	、	や		は	や			遇	喜	ま
「	へ	す		著	さ		急			ざ	。と	作		ふ	ま	ざ
と	る			く	ず		に			る	と	す		。	る	る
。	有			れば	。		之			が					の	み
	り			、			を			故					み	。
	、						執			の	定				」	と
							ふ			み	伯					
							。			。	曰					
											は					
											く					
											、					